

令和4年3月市長定例記者会見

日 時：令和4年2月28日（月） 午後4時～

場 所：射水市役所会議室305・306

報道出席者：北日本新聞、富山新聞、北陸中日新聞、チューリップテレビ、
庄東タイムス

当局出席者：市長、企画管理部長、財務管理部長、企画管理部次長、
未来創造課長、上水道工務課長、地域振興・文化課長、
港湾・観光課長

○質疑応答の概要

Q1. 昨年の濁り水発生の原因となった県の工業用水道管の腐食はどうして起きたのか。また、そういう箇所が他にもあるのか。

A1. 県の工業用水道管の腐食の原因は、経年による劣化が原因だろうと考えている。他にもそういう箇所があるのかということについては県の管轄になるかと思うが、管自身が全体的に老朽化している状況だと認識しており、こうした腐食による漏水が他の場所でも起こる可能性はあると感じている。県のほうでは適切に対策をとっていただきたい。

Q2. オレンジキャンペーンについて、初めての取り組みとなるのは海王丸と小杉駅地下道のライトアップか。

A2. 新しい取り組みとなるのは、海王丸と小杉駅地下道のライトアップである。また、特設展示についても、去年はクロスベイ新湊でイベントがあった際に展示を行ったが、今年アランマーレ富山の日本ハンドボールリーグでのホームゲームの会場となるアルビス小杉総合体育センターで展示を行う。

Q 3. ジェンダー平等に対する男性の意識に働きかけるために今後取り組んでいきたいことはあるか。

A 3. 男女共同参画社会の実現に向けての取り組みについては、これまでも市民の皆様や男女共同参画推進委員の方々と連携しながら進めてきているところである。特に昨今 SDGs の「ジェンダー平等を実現しよう」という目標も広く周知されつつあり、男性・女性がともに共通の目標を持って取り組んでいくことが重要であることは言うまでもない。様々な場面を通じて啓発を行っていきたいが、まずは今回のオレンジキャンペーンを通じてこの趣旨を多くの人々に理解してもらいたい。

Q 4. 射水市の子ども医療費助成の対象年齢が18歳まで拡大されるが、助成対象は在学している人だけなのか、それとも働いている人も対象となるのか。

A 4. 働いている方も含めてあくまでも18歳、いわゆる高校3年生世代まで一律に助成の対象を拡大する。検討段階では働いている方を除外したほうがいいのではないかという声もあったが、18歳までの若い年代は、高校生でも働いている方でも大学進学や様々な機会を通じて市外・県外へ転出する方が多い年代だと思う。そうした方々に、射水市には様々な手厚い子育て施策があることを改めて認識していただき、進学や仕事などで県外や市外に転出しても、いずれは射水市に戻ってきて子育てをしたいと思っただけの機会にできればと考えている。

Q 5. 「文化振興・文化施設在り方検討会」の報告書についての印象を伺いたい。

A 5. 文化振興という部分については、専門的な見地から射水市における文化の強みや、こんなところに力を入れていくべきだというご提言をいただいたので、しっかりと踏まえていきたい。また施設の在り方という点では、実際に専門家の方々が委員におられたということもあり、それぞれの施設の良さや大切に使ってきたという思い入れも含めたご発言・ご提言があったと捉えている。これから射水市の文化振興策はこうしたところをしっかりと踏まえながら、それぞれの施設についてこのまま使用することが妥当なのかを、今後報告書を基礎としながらしっかり検討していく。

Q 6. 市町村合併前からあるハードの在り方についての考えを伺いたい。

A 6. 公共施設の総合管理計画でも示している通り、建物の寿命が過ぎた段階で建て替えるということがすべての施設でできるわけではないということは数字的にも明らかである。一方で市民の利便性や文化活動を制約していくようなことになってはいけないので、両にらみをしながら、現実的にどういったところが今後の射水市の文化振興において役割を果たしていけるような施設なのかを、財政の健全性にも配慮しながら見極めていくのが今後の課題である。